

地学クラブ講演要旨

榎本武揚と開陽丸のルネサンス

西 川 治*

Takeaki ENOMONO and the Renaissance of the Warship Kaiyo-maru

Osamu NISHIKAWA *

明治は近くに

明治41年10月26日、社団法人東京地学協会会長子爵榎本武揚は病死、享年73。地学雑誌第20年第239号(1908年11月)には2ページの紙碑と1ページ大の礼装写真(海軍中将、ネームは漢文と仏文)が掲載されている。紙碑は簡潔な名文、各種人名辞典と比べてもその経歴と偉業のほぼ全容が的確に要約されていると思われるので、地学クラブ当日の参会者にはコピーを配布した。本年は榎本武揚(1836-1908:因みにF.リヒトホーフェン1833-1905)の生没年に関して特別の節目にあたるわけではないが、平成になってからも、その伝記・小説や開陽丸関係の出版物はかなりの点数になる。なかでも佐々木 譲著『榎本伝』(2001年、中央公論社)は上・下合わせて五稜郭陥落まで実に1,157ページ、内容ともに圧巻であり、後編を切望する声も高い(後掲展示目録参照)。

それとともに、榎本武揚への関心を助長する要因がいくつかあった。まずは、伊能忠敬ブームとの関連で、その重要な内弟子箱田良助(真与、後の榎本圓兵衛武規、1790-1860、榎本武揚の実父)の生家(広島県神辺町箱田)前に2001年4月8日、その記念碑が建てられたが、その除幕式の際に筆者は直系曾孫の榎本隆充氏に初めてお目にかかり、懇談することができた。ついで同年の5月

29日から9月2日にかけては、神辺町の菅茶山記念館(菅茶山は江戸後期の著名な漢詩人で箱田良助の友人、伊能忠敬とも面識があった)において企画展「箱田良助とその子榎本武揚」も開催された。出展数は地元からの箱田良助関係が6点、榎本武揚関係が21点(榎本隆充氏の好意による初公開)。

平成14年になってからは、8月3日・4日、東京農業大学の図書館において榎本武揚展が開催された。この案内冊子を多数頂戴できたので当日の参会者に配布した。榎本武揚は明治24年(1891)東京大塚窪町に育英齋を創立、この農業科が東京農業大学の前身である。この展示会には下鶴大輔先生(同大学元教授)が案内してくださった、記



12月20日の展示風景。

* 東京大学名誉教授

* A Professor Emeritus, the Tokyo University

本稿は2002年12月20日に行われた講演の要旨である。



当日展示された流星刀の一派。
榎本武揚自身の解説記事は地学雑誌 14 集 1 号 (157 巻) に隕石の挿図 (口絵) とともに掲載されている。



榎本隆充), 12 月 2 日には第 2 回 (佐々木 譲) の研究会が行われた。一方, 筆者は同年の 7 月 8, 9 日に北海道松前町の戊辰戦争跡を視察後, 翌日には江差町の財団法人開陽丸青少年センターにおいて, 石橋藤雄理事 (元理事長, 江差町元教育長) から 3 時間にわたり, 沈没した開陽丸の探索, 大量の遺物の引き揚げ, および開陽丸のオリジナル設計図による同大同形に復元した開陽丸記念館と当センター創設および運営に至るまでのなみなみならぬ苦心談を拝聴, 船体内部の構造と種々の展示物を見学, 関連出版物等を入手, 生来希なほどの感銘をうけた。

そこで地学クラブの世話人会で, 榎本隆充氏と石橋藤雄氏の講演とミニ展示についての私案を述べたところ, 賛同を得て本日の開催に至った次第である。両先生には年末のご多忙の中, とくに石橋先生は遠路はるばると, しかも共に貴重な文化財を持参賜りましたこと実に有り難く心から御礼申し上げます。なお格別の高配を賜った当協会佐藤久会長・理事会, 地学クラブ世話人代表服部仁先生, 岡原義旦事務局長, 関係各位に謝意を表します。



懐中時計



象限器
(クォータラント)

して謝意を表します。(ちなみに東京地学協会の創立主唱者, 初代帝国大学総長渡辺洪基は, 明治 21 年に工学院大学の前身「工手学校」を創立)。そして, 同大学は, 松田藤四郎理事長・進士五十八学長が中心となって「榎本武揚と横井時敬 (初代学長) の研究会」を創立, 9 月 30 日に第 1 回 (発表者は

配布資料

1) 概説および榎本武揚関係

1. 農大創立者 榎本武揚展－展示案内－
2. 榎本公使帰国の旅要図
3. Tarantas (スプリングのない四輪馬車) の図
4. 紙碑 (地学雑誌掲載のもの)
5. 資料 1: 佐藤家系図 (藤のゆかり) ほか
6. 資料 2: シベリア日記
7. 資料 3: 書簡
8. 資料 4: 自筆原稿
9. 榎本武揚年譜 (『榎本武揚伝』より)
10. 流星刀記事 (地学雑誌より)

2) 開陽丸ルネサンス関係

1. 開陽丸・ルネサンス
2. 開陽丸のあらまし
3. 開陽丸一甦る・幕末のロマン

展示資料

1) 榎本武揚関係

1. 流星刀 (長さ 6 寸 5 分, 無銘, 国吉国宗) 並びに「流星刀記事」自筆原稿
2. 全権委任状, 2 通, 明治 7 年 3 月 7 日及び 8 年 4 月 19 日御名御璽のあるもの
3. 『資料 榎本武揚』加茂儀一編集解説 昭和 44 年, 新人物往来社, 418p.
4. 『榎本武揚西比利亞日記附渡蘭日記』広瀬彦太郎編, 昭和 17 年
5. 「地学天文学随筆集 2」昭和 47 年 1 月～61 年 10 月, 北海道新聞夕刊に連載 (「隕鉄刀を見る」の記事)

2) 開陽丸関係

1. 葵の紋 (デザイン)
2. 象限器 (クォータラント)
3. 懐中時計
4. 温度計
5. 古文書
6. 開陽丸受注記念晩餐会のメニュー
7. 出版物数点

展示出版物目録

表 題	編著者	発行年	出版社
1. 榎本武揚伝	井黒弥太郎	S43	みやま書房
2. 榎本武揚	安部 公房	S48	中公文庫
3. 千島誌, 北方未公開古文書集成七	寺澤一他編	S54	叢文社
4. 海底考古学と開陽丸	江差高校	S55	江差高校
5. 榎本武揚	赤木 駿介	S55	成美堂出版
6. 開陽丸, 海底遺跡の発掘調査報告	江差町教育委員会	S57	同委員会
7. もう一つの五稜郭, 信州龍岡城	中村 勝実	S57	櫟
8. 函館戦争	武内 収大	S58	五稜郭タワー
9. 榎本武揚とメキシコ移民移住	角山 幸洋	S61	同文館
10. 榎本武揚	加茂 儀一	S63	中公文庫
11. 開陽丸ノート, 111 話	石橋 藤雄	H8	個人
12. 榎本武揚, 幕末・明治, 2 度輝いた男	満坂 太郎	H9	PHP 文庫
13. 小説榎本武揚, 二君に仕えた奇跡の人材	童門 冬二	H9	祥伝社
14. 函館戦争写真集	菊地 明・横田 淳	H11	新人物往来社
15. 開陽丸北へ, 徳川海軍の興亡	安部龍太郎	H11	朝日新聞社
16. 榎本武揚シベリア外伝	中園 栄助	H12	文藝春秋社
17. 武揚伝, 上下巻	佐々木 譲	H13	中央公論新社
18. 開陽丸	ドルトレヒト博物館	1979	
19. 開陽丸, 海底遺跡の発掘調査報告 (コピー)	江差町教育委員会	H2	同委員会
20. 榎本殖民	上野 久	H6	中公新書
21. 時代を疾走した国際人榎本武揚—ラテンアメリカ移住の道を拓く—	山本 厚子	H9	信山社
〔事後出版物〕			
22. 榎本武揚未公開書簡集	榎本隆充編著	H15	新人物往来社